

「スズメバチの同定 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

スズメバチ (スズメバチ科の昆虫) は種類が多く、性格 (特に攻撃性) に差がある。飛んでいると見分けは難しいが、死んだ個体をしっかり見れば同定できる。



キイロスズメバチは「ケブカスズメバチ」*Vespa simillima* の本州以南の亜種 *V. s. xanthoptera* である。「毛深」の名の通り、全身が黄色い毛で覆われている。また、翅の付け根に黄色の模様があるのが特徴だ。日本にいるスズメバチ類の中では、最も小型の種類だが、攻撃性はオオスズメバチにも匹敵する、最強のスズメバチである。これが、3夜続けて寝室に入り込んだのだからたまらない。幸い3回とも退治できた。



これは、「屋根裏か軒下に巣がある」と確信し、翌朝母屋の周辺を探索してみた。やはりあった。写真の○の位置に何かコブのようなものが見える。



キイロスズメバチが巣を作ったのは、勝手口の扉の真上にあたる、高い軒下だった。高さは4m以上ある。ハチにとっては安全だろうが、私には厄介な位置だ。



慎重に近づいて、写真を撮ってみた。直径は15cm程度で、キイロスズメバチの巣としては、まだまだ小さいほうだ。それでも、完全に壺型が完成しているし、ここまで大きくなるには数か月はかかっているだろう。私は、裏庭の手入れやゴミ出しで、毎日のようにこの勝手口を使っている。その間、巣の存在に全く気付かなかった。私の頭部の位置は、巣から2m余りだし、ドアの開閉で音や振動がある。ハチが怒って攻撃してきても、まったく不思議ではなかった。しかし、翅音すら聞かず、長期間気付かなかったのだ。

それにしてもたくさんいる。不思議とこの警戒色には、実に恐ろしい印象を受ける。双眼鏡で観察していたら、「偵察係」のスズメバチが、一直線に飛んできた。やはり長時間そばにいるのは危険なようだ。